

企業名： 阪和興業株式会社

レポート名： 統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

統合報告書 2021 を通して、阪和興業株式会社が目指す姿を理解することができる。それは以下の理由による。

まず、統合報告書 2021 には、阪和興業が位置する産業や業界、市場における変化とその影響についての記述があり、それに加えて、その変化に対応するための戦略として『「そこか」戦略』¹、『「東南アジアに第二の阪和を」』²、『「電池の阪和」が動き出す』³、等のような印象的な名前が付けられ、かつ有効と考えられるような戦略が記されている。このことから、阪和興業の現状認識とその対応策を読み取ることができ、阪和興業がどう変わるべきなのか、また、どのように変わらなければいけないのかということが分かるため、統合報告書 2021 は、阪和興業の目指す姿を理解する助けになると考えた。

また、統合報告書 2021 においては、コーポレート・ガバナンスについての記述が多く見受けられ、コーポレート・ガバナンス向上に向けてどのような取り組みを行っているのかということが分かる。加えて、「当社は良き企業市民たるべき社会的責務を果たし、」⁴、「法令及び社会規範を遵守した透明性に優れた経営体制の確立を目指しています。」⁵等の記述が見られる。これらのことから、阪和興業並びにその経営陣は企業を社会に貢献する存在であるとみなしており、経営に高い倫理性を求め、高い透明性や公平さを目指していることが理解できる。このことも、会社の目指す姿を把握しやすくしていると考えられる。

以上のことから、統合報告書 2021 からは、阪和興業の目指す姿が理解できると考える。

¹ 阪和興業株式会社『統合報告書 2021』[20210831_3669.pdf \(hanwa.co.jp\)](#) (2022 年 7 月 20 日参照)、4 頁

² 阪和興業株式会社『統合報告書 2021』[20210831_3669.pdf \(hanwa.co.jp\)](#) (2022 年 7 月 20 日参照)、5 頁

³ 阪和興業株式会社『統合報告書 2021』[20210831_3669.pdf \(hanwa.co.jp\)](#) (2022 年 7 月 20 日参照)、5 頁

⁴ 阪和興業株式会社『統合報告書 2021』[20210831_3669.pdf \(hanwa.co.jp\)](#) (2022 年 7 月 20 日参照)、21 頁

⁵ 阪和興業株式会社『統合報告書 2021』[20210831_3669.pdf \(hanwa.co.jp\)](#) (2022 年 7 月 20 日参照)、21 頁

2. この会社の競争優位性が理解できるか

統合報告書 2021 から、阪和興業は鉱物、水産物、木材等の取引に携わり、資源のリサイクルや資源開発を手掛ける海外企業への出資も行っていることが分かる。阪和興業が市場において大きなシェアを占める品目も存在し、サケ・マスやカニにおいて高いシェアを持つことがわかる。阪和興業は国内と国外の商取引において大きな影響力と存在感を持つ企業であるということが出来る。これらのことから、阪和興業が存在しなくなった場合、広範な資源の取引に影響があると考えられる。また、資源のリサイクルにも支障が起き、環境への負荷も増すと考えられる。したがって、統合報告書 2021 から、資源を安定的に供給することで経済活動を支え、リサイクル活動によって環境の改善に貢献することが、阪和興業の競争優位性であることが分かる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

統合報告書 2021 から、阪和興業の競争優位性に持続性があることが理解でき、競争優位性の持続性を支えるものは人材及び人材に対する投資であることが読み取れると考えた。阪和興業は統合報告書 2021 の中で、「従業員が生き生きと働ける職場づくり」⁶を重点テーマの一つとして取り上げている。その中で創業者の信条である『「商社は人なり」』⁷という言葉や、理念である「企業の繁栄と社員の幸福は車の両輪である」⁸という言葉を取り上げている。そして、具体的な取り組みとして、『「企業内大学」』⁹を立ち上げたことが記されている。『「汗をかいた知や「阪和 DNA」』¹⁰といった、これまでに積み上げられてきた知識や企業文化を体系化し、人材への投資に生かしていくという。阪和興業は多数の領域や国においてビジネスを展開しており、そのことが多くの好影響をもたらすと同時に、国境を越えて取引する際に必要な社員一人一人の高い能力やノウハウの蓄積を要求することになると考えられる。したがって、人材への投資に積極的な阪和興業は、同業他社に比べて、そのような能力の獲得やノウハウの蓄積に有利

⁶ 阪和興業株式会社『統合報告書 2021』[20210831_3669.pdf \(hanwa.co.jp\)](#) (2022 年 7 月 20 日参照)、29 頁

⁷ 阪和興業株式会社『統合報告書 2021』[20210831_3669.pdf \(hanwa.co.jp\)](#) (2022 年 7 月 20 日参照)、29 頁

⁸ 阪和興業株式会社『統合報告書 2021』[20210831_3669.pdf \(hanwa.co.jp\)](#) (2022 年 7 月 20 日参照)、29 頁

⁹ 阪和興業株式会社『統合報告書 2021』[20210831_3669.pdf \(hanwa.co.jp\)](#) (2022 年 7 月 20 日参照)、30 頁

¹⁰ 阪和興業株式会社『統合報告書 2021』[20210831_3669.pdf \(hanwa.co.jp\)](#) (2022 年 7 月 20 日参照)、30 頁

であり、競争優位性の持続性があると考えた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

統合報告書2021を読み、阪和興業において、人的資本の価値向上を達成できると感じた。統合報告書2021によると、阪和興業はオンライン上に企業内大学の設置を計画しており、そこでは、工学部、文学部、商学部、外国語学部が置かれ、ITスキルの向上や阪和興業の歴史の学習、ビジネススキルの向上、外国語の習得ができる予定になっている¹¹。統合報告書2021の中で『商社の財産は、「人」です。』¹²と述べている通り、人材教育に積極的な企業であり、ほかにも意欲的な取り組みを進めているため、阪和興業において、人的資本な価値向上を達成できると考えた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

人材への投資に力を入れていることは読み取れたが、進行中の計画もあり、今後具体的にどのような成果が出たのか数値などを使って客観的に示していく必要があると考えた。また、ダイバーシティの分野では、環境などの分野に比べて、女性役職者数のグラフなどから取り組みが遅れている印象を受けたので、今後一層の取り組みを進め、成果を上げると同時に、統合報告書の記載において、より一層の紙幅を割き、取り組みについて紹介していくことが必要であると感じた。記載方法自体には、図やグラフを使うだけでなく、取り扱っている資源や商品などの写真が使われており、分かりやすさが増しているといえる。取り扱っている品物にはあまりなじみのない資源が多いので、どのような用途に使われているのかより詳しい記述があると、阪和興業の事業内容や競争優位性、存在意義についてより感じられるのではないかと考えた。現状でも、十分に分かりやすく、取り組みが伝わりやすい統合報告書になっているが、より一層の向上を目指し情報開示の質を上げていくことで、コーポレート・ガバナンスの改善も図ることができ、さらなる競争優位性の確保につながると考えた。

参考文献

阪和興業株式会社『統合報告書2021』[20210831_3669.pdf \(hanwa.co.jp\)](https://www.hanwa.co.jp/20210831_3669.pdf) (2022年7月20日参照)

¹¹ 阪和興業株式会社『統合報告書2021』[20210831_3669.pdf \(hanwa.co.jp\)](https://www.hanwa.co.jp/20210831_3669.pdf) (2022年7月20日参照)、14頁

¹² 阪和興業株式会社『統合報告書2021』[20210831_3669.pdf \(hanwa.co.jp\)](https://www.hanwa.co.jp/20210831_3669.pdf) (2022年7月20日参照)、14頁